



院長 真崎 雅和

Dr.米谷&真崎のリレー講座

患話休題

かんわきゅうだい

40

嗅覚の話

きゆうかく

人には視覚、聴覚、味覚、触覚、嗅覚の五感が備わっていますが、今回は嗅覚について取り上げてみたいと思います。嗅覚が障害されると、周囲の環境の変化や有害な匂いに気付くことが遅れたり、風味が分らなくなるため味覚も低下してきます。

匂いを感じる細胞(嗅細胞)は鼻の上の方、ちょうど天井にあたる場所であり、嗅細胞で感知した匂いの情報は、神経を介して脳に伝わり認識されます。また、匂いの情報は好みや記憶を担当している部位にも伝達され、同時に匂いの好き嫌いを判断し、匂いに関する記憶も呼び覚まされます。

健康な人であっても、嗅覚は30歳をピークに加齢とともに徐々に低下していきます。これは嗅細胞の減少や機能低下によるものと考えられています。加齢による嗅覚低下はゆっくりであるため、気付かず過ぎていくことが多く、60歳代ころから急激に進行し、嗅覚の低下を自覚する方が増えてきます。

嗅覚の低下は加齢以外にもさまざまな原因で起こります。その多くは風邪やアレルギー性鼻炎、副鼻腔炎など鼻水、鼻づまりが生じる病気です。鼻の病気で起こる嗅覚の

低下は、鼻づまりのために匂いが嗅細胞まで到達できない場合と、風邪のウイルスなどにより嗅細胞自体がダメージを受けている場合があります。後者の場合は、重症の嗅覚障害となることも少なくありません。

診断は、まず鼻の中を観察し、嗅覚低下の原因となる鼻の病気の有無を確認します。嗅覚低下の程度は、匂いの付いた薬剤を注射して匂いを感じるまでの時間を計る検査や、何種類かの違った匂いを異なる濃さで嗅いでもらう検査で判定します。

嗅覚障害の治療の基本は、原因となっている病気の治療です。鼻水、鼻づまりが良くなったにもかかわらず嗅覚低下が続く場合は、嗅細胞自体がダメージを受けている可能性があります。このような嗅覚障害にはステロイドの点鼻薬が効果的ですが、回復までに時間がかかることも多く、治療も長期間にわたります。風邪の後に嗅覚の低下が長引く場合は、耳鼻科医に相談してみてください。



急患 随時受付

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前 8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	休診
午後 3:00~6:30	○	○	○	休診	○	△ 3:00~4:00	休診

診察時間が近づいたことをお知らせする

メールサービス

約30分前

ご利用ください。ご希望の方はメルアドを要付へ!!



真崎耳鼻咽喉科医院

TEL.018-845-0234 FAX.018-847-1321 秋田市土崎港中央6-8-3